

2026 年 9 月 1 日

Tazaki 財団英国留学支援奨学金
留学報告書

所属	東京大学経済学部
学年（留学開始時）	学部 4
参加プログラム	全学サマープログラム
派遣先	シェフィールド大学

この度は、Tazaki 財団様より留学奨学金をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

来年から社会人となるにあたり、長期間の海外在住経験がないことや、自身の実践的な英語能力の低さに不安を感じており、この度東京大学の全学サマープログラムへの参加を志望いたしました。

本留学は、4 技能にわたる語学力向上を目指すプログラムで、午後は東京大学の学生向けのアカデミックな講義が特別に開講されておりました。午前中の授業では、文法の正確性は二の次とした上で、同じクラスの仲間と共に積極的に英語で会話をしました。当初は文法間違いを意識してしまい会話に詰まる部分がありましたが、次第に英語を話すことへの躊躇が薄れていき、平易な単語を並べて自身の考えをテンポ良く発信することに焦点を移すことができました。また、午後の東大レクチャーでは、より発展的な内容の講義を受け、それに基づく簡単な議論を行なっておりました。内容の難しさと教授の話すスピードに付いていけず、半分ほどしか理解できませんでしたが、同学生の発信力の高さが刺激的だったことを覚えています。

大学受験を終えてからほとんど英語学習をしておらず、本留学が決まってからリスニングやスピーキングの練習に励んだものの、自身の語学力の低さを痛感した 1 ヶ月となりました。スピーキング能力が不足しているのはもちろんのこと、リスニング能力の低さが顕著に現れたと思います。教授やネイティブ学生の話す内容が聞き取れないため、どれだけ自分から話そうとしても、一方通行の会話に止まってしまう場面が多々ありました。両技能の根底にあるのは語彙力であると考えするため、帰国後も語彙・リスニング・スピーキング能力の向上に努めたいと思います。

また、イギリスで 1 ヶ月滞在する中で、日本のサービスが如何に行き届いているかを実感いたしました。トイレの清潔さ、電車の正確性、料理の提供スピードなど、日本で当たり

前だと思っていたことがそうではないことが多く、驚きの日々でした。しかし、デジタル化の浸透や勤務時間中の生産性についてはイギリスが勝るとも感じました。1ヶ月間の生活において現金を使用したことは一度もなく、また平日の午後もパブなどでお酒を嗜んでいる社会人が多いことから、勤務時間中に効率よく仕事をしていることが読み取れました。最低限のことを最低限の時間で効率よく行うイギリスに対し、日本は生活をより便利に過ごしやすいするためのサービスに特化していると思います。どちらにも長所・短所はありますが、自身としてはイギリス人の余裕を見習いたいですし、彼らにも日本人のホスピタリティを見習って欲しいと思います。

英語力・生活力・日本と海外の違いについて、最も意識を向けて考えた1ヶ月となりました。このような素晴らしい経験ができたのは、Tazaki 財団様からのご支援があったからこそだと思っています。この経験を、帰国してからの更なる学習と、卒業後の国際的な進路の模索に役立てたいです。改めて、誠にありがとうございました。

